



# リレー・フォー・ライフ レポート 2015



主催

公益財団法人 日本対がん協会

リレー・フォー・ライフ・ジャパン実行委員会



# 2015 リレーイベントのご報告

2015 年リレー・フォー・ライフ・ジャパン イベントを終えて

47 会場において、がん征圧と患者支援を胸に 82,019 人（内サバイバー 4,401 人、1,513 チーム）にご参加いただきました。47 のボランティア実行委員会の皆様からは、年間を通じた活動の結果、5,360 万円ものご寄付をお預かりしたことに感謝しております。また、各地においてボランティア実行委員をサポートし、協会本部を支えてくださっているブロックスタッフ、RFL 委員、そしてご寄付・ご協賛をいただいた企業・団体の皆様に、この場を借りて深く御礼申し上げます。

2015 年の初開催地は、5 月の一宮（愛知）をはじめとし、鶴岡（山形）、青森、釜石（岩手）、新潟、佐賀、沖縄の 7 か所でした。新たに歩み始めた初開催地を含め、どの会場にも希望の「HOPE」が灯り、夜通し歩き続ける人たちを明るく照らしました。

このレポートには、全国 47 会場の涙と笑いと感動が随所にちりばめられています。ぜひ一読のうえ、ボランティア実行委員の方々のリレーに対する想いを感じ取っていただければ幸いです。

2016 年、RFLJ はおかげさまで 10 周年を迎えます。今後も「がん征圧・患者支援」に向け、倦まず弛まず RFL 活動をしっかりとサポートしてゆく所存です。どうか変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

RFLJ 統括マネジャー 岡本宏之

## 北海道 室蘭市

## 室蘭実行委員会

### 継続が社会への浸透力に

実行委員長 稲川 昭

室蘭での連続開催が 8 年目となりました。実行委員会は 2 月より始まり合計 9 回実施しました。今年は新しいイベントの企画や 7 月に垣添忠生先生のがん対策市民講演会の開催もあり 19 時よりの開始ですが 23 時近くまでかかることも多く今後の課題となりました。

今年のリレーウォーク当日は、少し肌寒い感じでしたが幸い雨も降らず 2 日間のプログラムを無事終了することが出来ました。今年も多くの方から協賛金・募金をいただきがん撲滅の“ワンワールド・ワンホープ”の思いを共有することが出来ました。20 チームの参加をいただき、約 900 人の参加を得ることが出来ました。がんに対する啓発にも力を入れ、がん対策推進シンポジウム（がん検診のすすめ～検診は面倒くさくない・怖くない！～）も継続して実施でき、啓発用のプレハブを設置し栄養相談・リハビリ相談・垣添先生の講演ビデオなどを実施しました。ステージイベントとしてはルミナリエ点灯の静かな雰囲気の中チェロ・ピアノ演奏・オカリナ演奏に耳を傾け、日中は元気な看護学生さんによる吹奏楽・縄跳びの一種の競技であるダブルダッチなど、例年実施のイベントも皆様のご協力で楽しく実施されました。各方面からの多くのボランティアの皆様へ心から感謝です。

来年は垣添先生がご参加くださることが決まっております。楽しく活気あるリレーウォークが好天の中実施出来る事を願っております。



8 月 29 日～ 8 月 30 日

道の駅「みたら室蘭」  
隣接ひろば

総参加者数	900 人
チーム	20 チーム
サバイバー	50 人
総収入	2,503,822 円
実行経費	1,618,685 円
寄付総額	885,137 円

## I RFL を楽しく、着実に、前に進めよう

実行委員長 小渡 章好

3 回目の RFLJ2015 八戸を今年が最後の会場となる長根運動公園で行いました。2 日目撤収中に豪雨が来襲しましたが、中高生中心のボランティアさんと何とか乗り切りました。

毎年、サバイバーズラップ・参加者のウォークが一段落すると陽気なアメリカ人の先生とラフターヨガを楽しみます。幼稚園児から高齢者まで世代を超えて「アッハッハッ」と立ったり座ったり、手を合わせたりして笑い転げます。2 日間にわたり何度も涙を流す前に、まず大笑いです。

実行委員では RFL を楽しんで行く点で女性サバイバーの存在感が際立ちます。なかでも 70 歳前後の方々の素直で強い意志と行動力には目を見張るものがあります。若い世代の志も感動的で、H 看護専門学校の学友会は自主的に全生徒に「RFL に参加すべきか否か」のアンケートを取りました。結果は全員一致で「参加すべき」。実習で多忙の中、シフトを組み参加、見事な貢献でした。総勢 300 人を超える中高生ボランティアには実行委員ががんの現状について話したほか、サバイバーと交流、ウォークを積極的に行うなど体験を持ち帰り、学校や家庭などで話すことを促しました。

子供たちが変われば、大人も変わります。サバイバーのサポートに加え、地域でがんを乗り越えるために RFL が果たす役割は重要です。

がんに関わる数値ワーストの青森県。青森、弘前、八戸の中核 3 市で開催すれば結果として県全市町村が RFL に参加できるようになります。2～3 年後には弘前でもぜひ。



6 月 13 日～6 月 14 日

■ 八戸市  
長根運動公園陸上競技場

総参加者数	2600 人
チー ム	31 チーム
サバイバー	80 人
総 収 入	2,003,279 円
実 行 経 費	1,320,373 円
寄 付 総 額	682,906 円

## I COURAGE-ENCOURAGE

副実行委員長 熊地 由紀子

年に一度でも、天国に旅立った友人たちを偲びたい。そんな思いで実行委員に加わり、あっと言う間に開催日を迎えました。

2 日間を通して好天に恵まれ、快適なアリーナと、愛に溢れた実行委員メンバー、そして八戸実行委員の心強い全面協力を得て RFLJ 青森は無事に開催することができました。

青森らしい RFL にしよう！と、ねぶた囃子で迎え、垣添忠生会長による基調講演をはじめ、ステージイベントも充実のものでした。

初開催で資金もなく、何もかもが初体験。事務局は開催日ギリギリまでストレスフルな状態が続いたにも関わらず冷静に穏やかに励まし、対応してくれたことは、サバイバーとしての私の甘えを勇気に変えてくれました。まさに、テーマでもある COURAGE（あなたの勇気が円になって）ENCOURAGE（皆のことを励まします）を身を持って体験できたと思っています。

がん体験者だからこそ、予防・検診啓発の意義を十分すぎるほど理解していますし、また、がんになっても私たちは多くの方々に支えられているのだと改めて知り、本当に嬉しく、心躍る感覚を感じました。

RFLJ 青森は青森県のがん征圧とがん体験者、家族に希望と勇気を与える大切な役割を担うことになると確信しています。次年度に向けて早くも有志が来年の構想を練っております。まずは、ご支援くださった皆様に、心から感謝を申し上げます。



9 月 5 日～9 月 6 日

■ マエダアリーナ  
(新青森県総合運動公園)

総参加者数	1000 人
チー ム	26 チーム
サバイバー	53 人
総 収 入	2,316,526 円
実 行 経 費	1,813,244 円
寄 付 総 額	503,282 円



## 「ひとりじゃない みんなでつなぐべ 生命のバトン」

実行委員長 皆川 和子

「ジジジ有り難う、そしてさようなら」

サバイバーズラップで「本部席にSさんのお写真がございます。お別れのご挨拶を」とアナウンスが流れた。

青空へ真っ白なハト風船が吸い込まれていく中、がんサロンや患者会などサバイバーに続き「ひとりじゃない」のフラッグを掲げたSさん家族5人のチームが歩き始める。

4年前、余命半年の告知を受けひとりで参加したSさん。その後Sさんは「家族との時間を大切にしたい」と暮らし始めた娘家族と、千葉県から毎年参加した。今回家族は、夜中の大雨にもめげず、会場で24時間を亡きSさんと共にした。

いわてでは、エンプティテーブルの一本のバラが「家族・友の揺るぎない愛の象徴」として、閉会式で授与される。昨年Sさんからバラを受けたNさんは今年、実行委員として活躍。閉会式でプレゼンターとしてSさんの家族へバラを渡し、支えてくれる家族や仲間へ感謝の言葉を述べた。Sさんの娘さんも「元気と勇気をもらったRFLに、父の代わりに御礼に来ました。来年はお手伝いをしたい」と述べた。「生命のバトン」はしっかりと繋がれていく。

今年の実行委員会は、開催趣旨に賛同した仲間が増え50名ほどが名を連ねた。若い力で斬新な取り組みが展開され、学生ボランティアや賛助出店も増えた。有り難い。

「がんに負けない社会」を目指すチャリティー活動の輪が地域全体に浸透していく。

来年は5周年。「継続は力なり」を礎にプロセスを大切に歩き出そう。



9月12日～9月13日

### 一関遊水地記念緑地公園

総参加者数	1500人
チーム	47チーム
サバイバー	35人
総収入	3,489,100円
実行経費	1,987,158円
寄付総額	1,501,942円

## 「リレー・フォー・ライフが開催できた！」

実行委員長 栗和田 剛

初開催を終え、私達実行委員に残った4つのキーワードは「感動」「思いの共有」「Coming Out」「達成感」だった。

【ありがとう！】初開催のRFLJ2015さんりくかまいしの主旨をご理解いただき深く感謝します。会場提供や募金活動▶釜石市。 災害FMの番組協力▶FM岩手釜石支局様。

パンフレット印刷▶北日本石油(株)様。 各店舗にチラシ設置、職員でのチーム参加▶日本郵便(株)釜石郵便局様。 開催を待ってましたと一番参加▶チーム・ケアカフェ・きたかみ様。そして未来ある中学硬式野球チーム・釜石ボーイズの選手諸君。その他、後援団体・協賛企業・個人協賛の皆様や地域の郷土芸能やサークルでステージ出演いただいた皆様・友情出演や当日参加の皆様、本当に感謝します。

【伝える力】「RFLって何？」RFLは職種に関係なく「がん撲滅」を願う賛同者の「チャリティーイベント」である事をご理解いただけたと信じる。

今回は、今回参加いただいた皆さんが主役です。今回のRFLの感動を他の人に伝えて(話して)ください。「RFLJ2016さんりくかまいし」では、がん患者やその家族も住民も医療・介護関係者や一般企業も、がんの正しい知識を学び、その時どう行動すればいいのか？など、皆さんの理解と勇気ある行動が「がんになっても安心できる三陸沿岸地域」になり、RFLが分け隔てない大きな情報交流の場となっていることを願います。あなたの伝える力が「がんに負けないさんりく」を作ると信じています。



9月12日～9月13日

### シープラザ遊

総参加者数	306人
チーム	10チーム
サバイバー	23人
総収入	805,574円
実行経費	501,470円
寄付総額	304,104円



## 第 7 回目を終えて

事務局 馬場 浩一

第 7 回目を迎えた今年度は、場所を仙台市錦町公園で 8 月 22 日～23 日に開催し無事終了することができました。これもひとえに、実行委員各位と、大会運営に関わってくれた関係機関の皆様方のおかげさまと深く感謝申し上げます。

今回、大会前日が激しい雨となり、当日の天候が危ぶまれましたが、朝方には雨も上がり雲の隙間から晴れ間も見える奇跡的な天気となり、予定通り朝早くから準備を開始し、リレーウォークをスタートすることができました。しかしながら、2 日目は、雨となり終了時間を繰り上げて 10 時 30 分をもって終了しました。

今回は、日本対がん協会の特別協賛している製薬会社などからのチーム参加もあり PR 効果がありました。また、通勤通学、散歩する方が多く、通りがかりに立ち寄る方も多かったように思います。

準備段階から本日終了まで振り返りますと、RFL の 3 つのテーマを目標に、打合せ会を 3 回開催、実行委員会を 8 回開催してきました。

事業の根幹となる企画、広報、運営で考えれば、今回は仙台市中心部での開催という企画、なとらじ 801 をキーステーションにラジオ 3 でも放送した、「リレーフォーライフみやぎ ワンワールド・ワンホープ」の番組制作などの広報活動、また、運営においても各部の主体性のある活動をできたことは、大変有意義な時間であったと思います。

来年度も実行委員会の力を結集し活動していきます。



8 月 22 日～8 月 23 日

## ■ 錦町公園

総参加者数	743 人
チー ム	16 チーム
サバイバー	10 人
総 収 入	1,427,103 円
実 行 経 費	1,157,731 円
寄 付 総 額	269,372 円

## | 広く知ってもらうこと

実行委員長 今野 美奈子

初開催。夜中に雨が降るも、朝は快晴となり無事に終了しました。

仕事の都合などでいらっしゃる方々にとって鶴岡市は、「冬はうつになりそう」な所なそう。青空が少なく灰色の空が続く時期が 2～3 か月。「つつましかで控えめ」が美とされる、そんな地方でイベントをして、どれだけの方に来ていただけるのか。数年くらい、やってみたいけれどどうしようかとずっと迷い、考え、悩んでいました。でも今年、つぶやいてみました「一緒に分かち合えるイベントができないかな…」と。

RFL 経験者は、私の家族 2 人のみ。全てが初めてで何にもわかりません。サバイバーさんに来ていただけないかもしれない、チームを作ることができないまま、本番を迎えたので、参加者はあまりいないかもしれないなど不安は沢山ありました。

当日、ボランティア・アーティストの方を合わせ両日で 200 人くらいの方に参加していただきました。参加された方からは、入り方がわからない、どういうシステムになっているのか、こんなに感動するイベントならもっと多くの人に知って欲しい、など多くの声をいただきました。

実行委員みんなの力で、様々な壁を乗り越え、不安な気持ちを抱えながら、計画をしていきました。終了後、サバイバーさんや参加者の方々に、また来年もやってねと、お話いただきました。だから花マルです。知ってもらうという目標を達成したかと感じています。課題山積ですが、次回へ向けてまた頑張ります。



8 月 22 日～8 月 23 日

## ■ 鶴岡公園疎林広場

総参加者数	200 人
チー ム	0 チーム
サバイバー	19 人
総 収 入	510,877 円
実 行 経 費	401,760 円
寄 付 総 額	109,117 円



## 「想い」「集う」「広がり」「未来へ」「感謝」

6回目のRFLが無事終了しました。

今年もがん患者さんやがん経験者、ご家族やご遺族、がんを負けない社会の支援をされる方々など、数多くのご参加をいただきました。今年は、メイン会場の「あづま総合体育館」サテライトの「医大付属病院」「会津医療センター」の3か所での同時開催で会津は初開催となりました。案内ポスターは、それぞれ心が癒される手作りの温かなものでした。サテライトには、病棟の患者さんも参加、皆様から「すごく良かった」との声をいただきスタッフも感激！来年への活力をいただきました。来年はもう一つ会場が増えるかもしれません。実現するとメイン+サテライト3か所の4会場同時開催が実現です。福島のRFLは少しずつ広がっています。毎年参加してくれる方が新しい家族を連れて参加、「よちよち歩き」「抱っこ」でリレー、無意識に笑みが浮かびます。古参の皆様への感謝はもとより、新たに参加された、チーム、ボランティアの皆様の新鮮な感覚の提供など本当にありがとうございました。毎年新しい感動をいただいております。それぞれの「想い」を「集う」ことで共有、「広がり」ながら「未来」へ繋いでいけることへ「感謝」です。

「してあげる」「してもらう」では6回の開催はできなかったと思っています。これから皆様の「想い」を大切にしていける福島のRFLでありたいと思っています。

追伸 RFL 福島のHP フェイスブック是非見てみてください！



8月22日～8月23日

あづま総合体育館  
メインアリーナ

総参加者数	3000人
チーム	41チーム
サバイバー	250人
総収入	4,851,463円
実行経費	2,677,394円
寄付総額	2,174,069円

## 背中を押されて

実行委員長になって5年、初めての雨だった。毎年、1週間前から天気予報を何回も確認する。当日は雨の予報。対応を迫られる。屋根無しのステージのため当日出演できないグループも出るだろうと担当者も戦々恐々としていた。当日の朝降った雨は学生ボランティア、実行委員が濡れるには十分だった。それでも誰一人文句も言わずにテキパキとテントを立ててくれた。空を見上げ、開会式で鳩型バルーンリリースをするかどうか思案していると、リリースのカウントダウンをお願いしていたサバイバー代表の吉野ゆりえさんが「大丈夫、私は晴れ女だから。絶対に晴れるわよ。」と笑顔で言ってくださった。あまりに自信ありげなので、思わず笑みがこぼれた。果たして、直前に見事に雨があがった。バルーンリリースは何度見ても感動的である。

毎年、発見や出会いがある。今年は1日目の夜に、余命1か月と宣告されたサバイバーさんが会いに来てくださった。直前に来場は難しくなったというメールが来て諦めていただけに驚いた。一緒にゆっくりと会場を半周した。「素晴らしいイベントですね。」とおっしゃっていただいた。穏やかな声だった。

「迷った時は初心に戻ってみよう」いつもそう思ってきたのに、時にその気持ちを忘れてしまう。毎年、色々な方達から背中を押していただき、勇気と希望を分けていただく。その思いを心に刻み、来年へとつなげたいと思う。



5月16日～5月17日

研究学園駅前公園

総参加者数	850人
チーム	23チーム
サバイバー	87人
総収入	1,761,568円
実行経費	1,053,156円
寄付総額	708,412円



## 雨も想定内です

RFL2015 とちぎは、会場を第3回までの宇都宮市城址公園から壬生町総合公園陸上競技場に移して開催しました。実行委員は開幕するまで、心機一転の反面、不安な気持ちもなかったわけではありません。しかし、新しい会場で新たな出会いやチーム参加があり、大勢のボランティアも集まってくださいました。実行委員全員大変感謝しています。そして、とちぎの誇るルミナリエは今年も皆様のご協力のおかげで過去最高 3,300 基が灯りました。恒例の？雨にも見舞われましたが、それは「想定内」。全員参加でのルミナリエの設置同様、みんなで雨の中、ルミナリエにビニールをかけます。夜半過ぎまで続いた雨の中、ルミナリエは一晩中歩くチーム、チームフラッグを引き継いだ代歩のボランティアの皆さんを照らします。24 時間歩き続けること、そしてその道程をルミナリエが照らすことが RFL の本当に大切にしなければいけないことではないかと考えます。雨の上がった夜明け、陸上競技場のスタンドから真正面の東の空に RFL のテーマカラー、紫の薄い光が現れました。日の出までしばし、空が少しずつ明るくなっていくを感じながら、ルミナリエだけの暗闇で歩き続けた先に明るい夜明けが来たように、「がん」に関わるもの全てに明るい未来が来ることを信じます。

今回もご支援いただいた全ての皆様に感謝し、RFL とちぎは 2016 年に向けて始動します。来年も会場の皆様にお会いできることを楽しみにしています。

副実行委員長 荒川 正子



9月19日～9月20日

### 壬生町総合公園陸上競技場

総参加者数	2000 人
チー ム	43 チーム
サバイバー	345 人
総 収 入	7,766,636 円
実 行 経 費	3,546,719 円
寄 付 総 額	4,219,917 円

## 雨雲を吹き飛ばしたサバイバー達の希望

3 回目の開催となる今年は、前日から雨が降り、2 日間とも雨の予報となっていました。当日は、冷たい雨の中で開会準備を進めながら、開会式の間だけでも上がってくれば、と皆で願っていました。そんな中、自称晴れ男、晴れ女の皆さんが続々と会場に集まり、開会 1 時間前には雨が上がり、閉会までの 24 時間、予報外れの晴天に恵まれました。

晴れ女の一人、昨年再発治療を体験されたサバイバーの H さん曰わく、「私ね、晴れるって思っていました。心配していなかったのです。思い描いていた現実になりました。本当に良かったです！」。今年は、希望が持つ力の大きさを改めて感じました。

会場には、患者会や医療機関、職能団体、企業や学生、県庁や市役所などの行政機関、地元サッカーチームの応援団など、69 チームと個人、のべ 6,850 名が集いました。今年は子ども連れの参加者が大変多く、会場内を子ども達が駆け回り、迷子の呼び出しまであるなど、大変賑やかでした。

フィールドでは、各チームがクイズやスタンプラリー、血管年齢測定、野菜販売など楽しいアクティビティを企画してくれました。また、医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護協会等の皆さんには、相談コーナーなどを担当いただき好評を得ました。

最後になりますが、ボランティアや、事務局の群馬県健康づくり財団の皆さん、協賛企業をはじめ応援してくださった全ての皆さんに、心から敬意と感謝を申し上げます！

副実行委員長 狩野 太郎



10月17日～10月18日

### 群馬県総合スポーツセンター ふれあいグラウンド

総参加者数	6850 人
チー ム	69 チーム
サバイバー	152 人
総 収 入	5,738,841 円
実 行 経 費	3,634,546 円
寄 付 総 額	2,104,295 円



## サバイバーが大きな顔をする場所

副実行委員長 横田 治重

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 さいたまは、7 回目を迎えた今年も昨年に続き天候に恵まれ、多くのサバイバー・ケアギバーのご参加をいただいて 9 月 12 日～13 日にさいたま市農業者トレーニングセンター緑の広場で開催されました。会場では開会式、サバイバズラップから始まった 24 時間リレーウォークの傍ら、ゲスト講師や埼玉県立がんセンタースタッフによる様々な啓発講演やがん相談活動が行われ、ステージでは音楽やダンス、トークセッションも行われました。夕方から夜にかけては、静かな時間が流れる中ルミナリエの言葉に見入る方、エンプティテーブルのセレモニーでは涙を流す方の姿もありました。また、今年も会場に隣接する見沼ヘルシーランド様には全面的にご協力をいただき、2 日間参加者の貸し切りで入浴・休憩利用が可能でした。そして、サバイバー（私もそうなのですが）の方は無料で利用できたのです。24 時間の最後もサバイバズラップの後、記念撮影⇒閉会式、式の間参加者を見守るかのようにアゲハチョウが我々の上を舞っていたのが印象的でした。2 日間を通じてサバイバーが大きな顔をする場所を作り出せたでしょうか？参加者全員、来年の再会を誓って閉会となり、参加者の協力により速やかに後片付けまで行うことができました。

来年はサバイバー・ケアギバーともにさらに多くのご参加がいただけるよう、日常の活動を続けていきたいと思います。



9 月 12 日～9 月 13 日

農業者トレーニングセンター  
緑の広場

総参加者数	2200 人
チ ャーム	39 チーム
サバイバー	84 人
総 収 入	3,223,063 円
実 行 経 費	2,171,270 円
寄 付 総 額	1,051,793 円

## 未来にむかって、全てはサバイバーの為に

実行委員長 廣瀬 哲也

7 年目の川越のリレーはここ数年で一番の好天候に恵まれました。今年は埼玉県に加え、城西大学が共催に加わり、多くの大学生ボランティアの協力を得て、会場の設営、撤収等がスムーズに進みました。「彩の国連携力育成プロジェクト」による近隣 4 大学の合同チームによる夜の語らいの場「よるカフェ」、医療栄養学科による周回回数から計算した消費カロリー別のチーム表彰など新しいアイデアも生まれ、これが参加した若い人たちの学びの場になって行くこともリレーを開催する意義であると考えます。また賛同した県内の企業が無料で LED を貸して頂き素晴らしい「HOPE」を作る事ができたのも地域への浸透の証と思います。今年は「がんサロン」から加わったサバイバーの実行委員が増え、改めて「サバイバーの目線」に立ってリレーを見直そうと努めました。今年のテーマ「未来にむかって孤独からの脱皮」は、サバイバーの実行委員が中心となって決めました。サバイバーを讃える事とは、サバイバー自身が病気との孤独な闘いから「ひとりじゃない」と歩みだしていくことに寄り添う事であると話し合ったのです。埼玉県立小児医療センターの子供達には手形の代わりに葉っぱの形のメッセージを書いてもらいました。来年もこれらの取り組みをさらに進化させ、より多くの参加、より多くのチャリティを得る事を目標に精進して行く所存です。2016 年 9 月 17 日また芝生広場でお会いしましょう。



9 月 19 日～9 月 20 日

川越水上公園 芝生広場

総参加者数	2500 人
チ ャーム	50 チーム
サバイバー	120 人
総 収 入	3,162,817 円
実 行 経 費	1,892,922 円
寄 付 総 額	1,269,895 円



## リレー・フォー・ライフちば初の体育館での開催

実行委員長 松川 圭介

6回目を迎えました「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 ちば」は2015年8月8日、9日の2日間にわたり八千代市市民体育館にて成功裡に終える事ができました。今回は、実行委員やボランティア、サバイバーの負担軽減、支出の削減、天候リスクの回避などを考慮し、初の屋内体育館での開催となりました。

体育館ならではのイベントとして、「みんなで紙飛行機を飛ばそう！」は、開催準備からご協力をいただいている東急建設さんのご尽力で実現した屋内ならではの企画でした。2階の観客席から一斉に飛び出した紙飛行機は、みんなの希望と願いを乗せていつまでも飛んでいました。

そして、ラストウォークから閉会へ。あるサバイバーさんの「本当に来て良かったです。頑張って来年も必ず来ます！」と言っていた言葉が大きな励みになりました。

初の屋内での開催でしたが、終えてみると、特にがんサバイバーの方々から例年よりも身体の負担が軽減したとの声が多く寄せられ、実際多くのサバイバーさんに長時間にわたってご参加して頂けたと思います。

RFLJ ちばのキャッチフレーズ「明日をむかえることができる喜び、みんなで歩いてむかえたい」というテーマを胸に、今年も実行委員一丸となり取り組んだリレー・フォー・ライフ。がん征圧、がん患者・家族支援への一助を果たすことができました。



8月8日～8月9日

八千代市総合運動公園  
市民体育館

総参加者数	900人
チーム	15チーム
サバイバー	100人
総収入	1,231,354円
実行経費	474,034円
寄付総額	757,320円

## それぞれの想いを伝え合った24時間

実行委員長 藤田 雄一

雨の中での前日準備となりましたが、当日は快晴の下1万2千人もの来場者で賑わい、サバイバーを中心としたチーム、ケアギバー、ステージ出演者、一般来場者が参加、がん征圧への想いを分かち合える大会となりました。今回、主役であるサバイバー・啓発テントでの活動に今まで以上に力を注ぎました。スタッフを増員し、前年の3倍近くのがん経験者の方がテントに立ち寄ってくださいました。ステージでは今話題の「抗がん剤治療について」啓発、テントでは小学生から学べるがん教育など幅広い催しで交流が持たれ、大変好評を得ました。

パフォーマーも見入る人の心を惹きつけ、そのパワーが会場を包み込みました。

今年は例年以上に多くの企業、個人より、寄付に加え協賛品やサービスをご提供頂きました。東京上野の名物、協賛企業からの商品が当たるラッフルくじやガラポンが大変好評で、参加者は楽しみつつ募金につながるこの企画に喜んで参加してくださいました。

夜はルミナリエの光が灯る中、エンピティテーブルの詩の朗読。サイレントウォークもバイオリンの生演奏をバックに肅然と行われ、想いを分かち合い、故人を偲び、がん征圧を強く願いました。

東京上野で開催し3年。多くの方のご支援の下、改善と努力を重ね成長してまいりました。来年も、より強固なチームワークを築きさらに組織を固め、皆様と共に、がん患者支援、がん征圧という大きな目標に向かって行きたいと思います。



9月26日～9月27日

上野恩賜公園

総参加者数	12000人
チーム	59チーム
サバイバー	202人
総収入	5,694,086円
実行経費	1,135,713円
寄付総額	4,558,373円



## 晴れて全プログラムできました！

3度目の正直！秋晴れの空のもと、3回目のみなとみらいを無事終えることが出来ました。ご参加頂いたボランティアやチームの方々、ご協賛頂いた企業・団体の皆さん本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

今年は、念願だった吹奏楽の生演奏によるサバイバーズラップに始まり、全ての企画が実現できました。星空の下でのエンプティーターブルには、ボランティアの方々にも一旦手を休めて参加してもらい、これまでに無かったほど沢山の方々と一緒に本当に素晴らしい時間を過ごせました。初めてご参加された一人の方が、エンプティーの意味を知ったのをきっかけに我々の取り組みにとっても共感してくださいました。そのような方をもっともっと増やしていくことが、やがてこの国のがんという病気を撲滅することにつながると信じています。まだまだ課題は多いですが、1つ1つクリアして次回、次々回とつなげていきます。

実行委員長 池田 誠吾



10月3日～10月4日

■ 臨港パーク（みなとみらい21地区）

総参加者数	500人
チーム	17チーム
サバイバー	16人
総収入	1,605,780円
実行経費	735,780円
寄付総額	870,000円

## 大学生主体によるカレッジ RFL 展開を目指す

実行委員長 田辺 宏幸

昨年に引き続き県立保健福祉大学の全面応援をいただき本年3月より、2回目の準備を開始。昨年より多くのがん患者さん、参加者においでいただくよう、また昨年以上の募金金額となるよう目指した結果、金額で23%増、参加者数で25%の増加となり、多くの皆様のご協力と支援のおかげと考えています。また実行委員、ボランティアの弛まぬ努力もその陰にあり、相当の前進がみられました。

昨年の経験、反省を生かし当初より学生ボランティアによる主体的なイベント企画への参画は、初体験ではありましたが、一定の成果が得られました。特にがんで亡くなられた方を追悼するルミナリエにおいては感動と涙に包まれました。

地元横須賀共済病院、三浦市立病院、三輪医院をはじめ多くの医療機関の方々によるがん医療講演及び啓発活動にご協力をいただき、参加者の方々へのがんに対する啓蒙活動に、昨年に比し一層お役に立てたかと感じております。

2日間を通して、天候にも恵まれ、全ての参加者、ご支援戴きました全ての皆様が、また準備から携わってこられた学生、社会人ボランティアの皆さんが、24時間のリレーウォーク、開催の後片付けが終了するまで無事に怪我もなく終了できましたことに感謝しています。



9月26日～9月27日

■ 神奈川県立保健福祉大学

総参加者数	500人
チーム	8チーム
サバイバー	12人
総収入	318,652円
実行経費	75,893円
寄付総額	242,759円

## 参加者・支援者・実行委員の活動に感激した 1 年

実行委員長 梅田まりあ

毎日がリレー・フォー・ライフ。実行委員も一人の参加者。大切にしているスローガンです。年に 1 回の大会を目指して会場の準備など進めていますが、その日へ向かって自分たちも積極的に自主的に活動すること、時間や身体的には少し大変ですが大切にしています。

年に数回のフリーマーケット参加、チャリティライブの開催、町のイベントへの参加、小さいワークショップの開催、去年から育ててきた芽は着実に育ってきたと今年は実感しています。次のフリマはいつ？今年もライブ出るよ！温かい言葉に沢山励まされました。チーム参加者に対しては、こまめにチームリーダーとやりとりを重ね、事前のチャリティ活動と呼びかけ、当日もテントで積極的に活動してもらうことができました。その反面、テント内で活動をする人が増えたためリレーウォークが淋しい時間帯も多々ありました。これは来年の課題です。

地元町内会をはじめ、近隣の医療施設、学校やローターアクトクラブの若者たちとの交流を積み重ね、地域へのがん啓発活動を進められていることにありがたく思います。

2014 年の課題は 2015 年実行委員の愛と努力で克服しました！来年の課題も力を合わせて乗り越えていきたいと思っています。回を重ねるごとに進化し、充実した活動を続けていこうと実行委員一同今年度の締め括りにあたり気持ちを新たにしました。毎日がリレー・フォー・ライフ！今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



9 月 22 日～ 9 月 23 日

### 日産フィールド小机

総参加者数	1000 人
チ ャーム	51 チーム
サバイバー	60 人
総 収 入	1,139,223 円
実 行 経 費	563,717 円
寄 付 総 額	575,506 円

## 出逢いこそが、がんからの贈り物でした

実行委員長 伊勢 みずほ

新潟県では満を持しての初開催！私は昨年乳がんを宣告されたサバイバーという立場で、このイベントに携われたことに心から感謝しております。

これ以上ないほどの秋晴れに恵まれた 2 日間。紫のバンダナを着けたサバイバーを先頭にリレーがスタート！そして続々と、様々な思いを胸にした方が歩いてくださり、延べ参加人数は千人を超えました。夜、私はエンピティテーブルで詩の朗読をしました。そこでちょっと勇気があることをしました。実は公の席では初めて、ウィッグを外してぼうず頭で皆さんの前に立ちました。この日私は沢山のがん経験者やご家族の方から声をかけていただきました。多くの方が泣いていました。お話しするうちに涙ぐんで、ついには溢れ、抱き合って泣きました。何人もの方と一緒に。「妻が抗がん剤を始めました」「友人がステージ 4 と言われたのですが何をしてあげられるでしょうか」「いい報告ができないから親戚にも会いたくない」

心の中の不安や悩みを話してみると、不思議なほど前に進む力が湧くことを知りました。私も一歩進みかけた。弱いところを見せることは決して恥ずかしいことではなく知らず知らずのうちに同じ不安を持った誰かの力になることもある。真剣に自分の命を思い、家族を思い、友人を思う時間は病気を授かってからの方が充実しています。そんなことに気づかせてくれたこのイベントとの出会いも、私にとってはキャンサーギフトです。



9 月 21 日～ 9 月 22 日

### 新潟県スポーツ公園

総参加者数	1200 人
チ ャーム	19 チーム
サバイバー	73 人
総 収 入	3,209,270 円
実 行 経 費	2,021,146 円
寄 付 総 額	1,188,124 円



## Ⅰ いっしょに歩こう～24 時間命のリレー～

実行委員長 柄澤 清子

今回、前回までと会場を変え、長野市南部に新設された「篠ノ井中央公園」で開催しました。地域の皆様には、まだまだ知名度の低い RFL を新たな地で開催するには、課題もありましたが、実行委員のパワーと心配り、そして参加者全員の協力で乗り切ることができました。

今年は、新会場でもあり新たな企画を立てるとともに、がん征圧を目指し、がん患者や家族、支援をしてくださる皆様と交代で歩き、勇気と希望を分かち合い、「祝い、しのび、立ち向かい」しました。

新たな企画の1つ目は、公園管理者「緑育協会」の協力による「ハート花壇」です。公園の一部にハート形の花壇をつくり、寄付として購入いただいたピンクのミニコスモスをそれぞれの想いや願いを込めて植え、がん患者さんへの応援メッセージにしました。

2つ目は、子宮頸がんに関与した女性の思いを描いた映画「いのちのコール」の上映会です。映画の上映会は初めてでしたが、多くの方に鑑賞いただきました。

3つ目は、ルミナリエ「HOPE」の点灯です。エンプティテーブルの後、参加者全員でそれぞれの思いをこめて希望の光を灯しました。

さらに多くのサバイバーの皆様に参加していただき、同じ悩みをもった者同士が話せる場になれたらと思いますが、今年も参加者の皆様の笑顔がとても素敵な2日間でした。

ご支援、ご協力をいただきました皆様に感謝申し上げます。そして、来年の記念すべき5回目のRFL 信州長野でまたお逢いしましょう。



9月12日～9月13日

### ■ 篠ノ井中央公園

総参加者数	3500 人
チー ム	29 チーム
サバイバー	100 人
総 収 入	4,377,365 円
実 行 経 費	1,602,249 円
寄 付 総 額	2,775,116 円

## Ⅰ みんなで歩もう。そして、進め未来へ！

実行委員長 大月 典幸

仲間の笑顔と元気に逢いたくて始めた松本での RFL。それが今回でもう4回目の開催となりました。今まで支えていただいた全ての方々に感謝いたします。

今年は「命～ inochi～」をイベントテーマにしました。がんの告知を乗り越えたサバイバーやケアギバーの今ある命を祝い讃え（Celebrate）、がんなどにより姿を失った命を偲び（Remember）、そしてがんと闘い、今から近い未来に、がんにより悲しむ人がいなくなる世の中を創るために日々努力している仲間たちの命とともに歩む（Fight Back）。カタチのありなしにかかわらずひとりにひとつずつある命（inochi）を、私たちはいつでも愛おしく大切にしたいと思い、このテーマにしました。

今年のイベントは、数々のアクシデントに見舞われ、また準備不足もあり数字的にはかなり残念な結果になってしまいました。しかし、その反面、未来の RFL に繋がるとても素晴らしい試みを幾つも行うことができました。それは、サイレントウォークの実施や、ウォークカウントシステムの導入です。原点に戻り、より「歩く」ということを意識した取り組みによって、夜間のリレー参加者が増え、また、元気に歩いたり静かに歩いたりそして一生懸命に歩いたり、同じ空間を歩くのにもメリハリをつけることができました。ご参加いただいた皆様のご協力に深く感謝するとともに、引続き2016年もまた、この RFL のフィールドでお会いできることを願っています。



9月12日～9月13日

### ■ 信州スカイパーク内 やまびこドーム

総参加者数	850 人
チー ム	25 チーム
サバイバー	35 人
総 収 入	2,071,297 円
実 行 経 費	1,861,241 円
寄 付 総 額	210,056 円

## 人を繋ぐ糸を紡いだふくいのリレー

実行委員長 岩堀 嘉郎

5回目を迎えるふくいのリレーは「紡ぐ」をテーマとしました。

ふくいのリレーはサバイバーの参加者が多いのですが、これまで 病院の患者会相互の交流がなかなか進みませんでした。そこで今年は患者会の主催で交流会を企画していただきました。体操や歌・ヨガなどでアイスブレイキングをした後、患者会をシャッフルして日ごろの悩みなどについて情報交換を行ったところ、例年になく熱のこもった話し合いができました。それぞれの患者会が「繭」とすると、今回の患者交流会はいろいろな繭から繊維を引き出し縫いをかけて糸に「紡ぐ」過程であったと思います。今後さらにこの糸が丈夫で長いものに発展し、福井のがん患者さんをやさしく包む布になってくれることを願います。

さらにステージイベントではがん拠点病院の職員で結成されたバンドが盛り上げてくれました。カバー曲だけでなく患者さんのために作詞作曲した曲を披露していただいたのが印象的でした。

また、もはや定番となった松田陽子さんのトーク & ライブは、悪天候のため短い時間となってしまいましたが、生命のエネルギーを歌声に凝縮したような力強いものでした。

我々実行委員も5年目を向かえ、新たなメンバーが加わる一方で、大切なメンバーのがんのために失いました。彼女のリレーに対する思いは残された我々が大切に受け継いでいきます。



9月5日～9月6日

### ふくい健康の森

総参加者数	705人
チーム	28チーム
サバイバー	140人
総収入	1,369,974円
実行経費	934,542円
寄付総額	435,432円

## アットホームなリレー・フォー・ライフ岐阜

実行委員長 辻 かおる

今年で連続4回目となる RFL 岐阜を開催致しました。

今年は遠方からも多数で参加頂きましたが、会場の各所では自然と人が集まり語り合う場面も多く見受けられ RFL とは何かを改めて感じる事が出来ました。また、体調がすぐれないか必ず参加するという思いで頑張ってきた方や、旅立った仲間、ご家族の方が一緒に同じ時を過ごされた会場では様々なドラマがあります。言葉が無くて手と手を取り合い、抱きしめるだけでその思いは伝わるものですね。そこに想いがあり居場所がある。これが RFL の素晴らしさかもしれません。私はこれまで実行委員として参加してきましたが、RFL 岐阜を繋いで行きたいという思いで今回、実行委員長を引き受けさせていただきました。始めは、想いがあっても上手く伝えられない自分自身へのもどかしさで本当に私が実行委員長で良かったのだろうか・・・と不安な気持ちになりましたが、実行委員長経験者の山下さん、松野さん、実行委員の皆さんに支えられ開催に向けて様々な課題と一緒に取組んでいただけた事で私自身の不安も消えさりました。毎年、RFL 岐阜はアットホームな会場とおっしゃっていただけますが、これも、実行委員会の雰囲気や自然と会場に表れているように思います。来年も引き続き実行委員長をやらせていただきますが、素晴らしい実行委員の方々と一緒に岐阜らしいアットホームな雰囲気作りを目指して RFL に望んでいきたいと思っています。



10月10日～10月11日

岐阜大学医学部附属病院内  
ホスピタルパーク

総参加者数	511人
チーム	24チーム
サバイバー	82人
総収入	1,137,064円
実行経費	196,984円
寄付総額	940,080円



## いのちいっぱい今を輝け

副実行委員長 杉山 孝

緑の芝生にレンガ色の校舎、そして青い空。この景色は、静岡のリレーの定番となりつつあります。

地域の実行委員仲間を増やしたい。という願いを持って始まった3年目。説明会の甲斐があり、新実行委員は16名も増え総勢51名となりました。各セッションのチームワークが抜群で、笑顔が随所に見られました。昨年の反省点と改善点をみんなで話し合い、結果に繋がりました。サバイバーへのおもてなし、温かくて親しみやすいサロンの運営。チーム間の交流の場を作ろうとシャッフルタイム（チーム交流ウォーク）を設けたり、HOPE ビューポイントを設けたり。

また、近隣の大学生が6チーム、ボランティアやテント活動に活躍し、リレーに活気を与えてくれました。1,600を超えるルミナリエが、開会式前に並べられていたのには驚きました。

チームの皆様にも感謝いっぱいです。リレーウォークはもちろん、チームテントでは、バザー、子どもプログラム、整体・マッサージの癒し系から、おくり相談、啓発プログラムなど、楽しさ満載でした。

その中でも人気があったのが、学生チーム運営の『ビーズリレー』。1周歩く毎にカラフルなビーズの中から1つを選んで糸に通し、ネックレスなどのオリジナルのアクセサリを作ります。夜中も交わす「お帰り」「ただいま」などの挨拶、ビーズに糸を通しながらの何げない会話も心地良く感じました。

来年もこの会場で、楽しく・温かく・優しいリレーの開催を目指します。



9月12日～9月13日

## ■ 静岡県立大学 芝生園地

総参加者数	1842人
チー ム	34 チーム
サバイバー	82人
総 収 入	3,141,434 円
実 行 経 費	1,076,063 円
寄 付 総 額	2,065,371 円

## 来年も、必ず笑顔でお会いしましょう！

実行委員 木村 水香

「ながいずみチームには、もしかしたら雨男と雨女しか居ないのでは無いか!？」と言ってもおかしくない位、毎年雨に悩まされていましたが、今年は雨に1滴も濡れる事無く、10月3日(土)～4日(日)に無事開催する事が出来ました。

私は実行委員、そしてサバイバーです。実行委員としての「やりがい」と、サバイバーとしての「生きている時間」の両方を味わう事が出来て、本当に贅沢な時間を過ごしました。

また、私は足のがんでしたので、野外での義足歩行は余り上手ではない為、車椅子に乗り、サバイバーズラップに参加したのですが、なんと、ワイヤレスマイクで歌を熱唱しながら周回しちゃいました！

そのお陰で、会場では沢山の方に声を掛けられ、名前も覚えて頂き、更にフェイスブックのチーム投稿の「顔半分の子」でも覚えて頂き、実行委員としてもサバイバーとしても、思いきり楽しむ事が出来ました。

夜のルミナリエセレモニーの時間は、温かく優しい涙で会場が包まれました。参加した全ての皆さんにエンプティテーブルを囲んでいただけるのは、ながいずみチームの自慢の一つです。

ながいずみチームメンバーは「家族」のようで、定例会は「みんなの顔を見たくて行く」。そんな感覚が生まれたからこそ、今年も無事開催する事が出来たと感じています。

来年も、皆さんと笑顔でお会いできる事を祈って…!



10月3日～10月4日

## ■ 長泉町 桃沢野外活動センター

総参加者数	520人
チー ム	13 チーム
サバイバー	31人
総 収 入	1,243,336 円
実 行 経 費	515,308 円
寄 付 総 額	728,028 円

## I 感じよう 風を 光を めくもりを

実行委員長 井上 光樹

世界中のリレー・フォー・ライフにそれぞれの良さがあるように、私たちも私たちにしかできない「また来たい」と思ってもらえるような時間と場所を作ろうとスタートしました。様々な立場や経験、熱い思いを持って集まった実行委員同士が意見を交わし合い、あるサバイバーの想いから生み出された「感じよう風を 光を めくもりを」の言葉を一つのコンセプトにして実行委員それぞれの特色を生かしながら一体となって準備を進めていきました。

特に心がけたのは、例えば勇気を持って一人で会場に来た人、何かを得ようと来られた人の心の声と距離感に耳を傾けることでした。人の気持ちに配慮した手作りで温かみのある受付、優しく心のこもったがんと向き合うサバイバー & ケアギバートーク、参加してくださった皆様が何かを持って帰ってくださるようにと、笑顔と晴天の中、RFL 尾張を無事に開催することができました。

今回、会の開催や準備におきまして、悪戦苦闘する実行委員会を気長に見守り、大きな配慮と熱意をもって鼓舞、応援をくださいました皆様、RFL 尾張に関わっていただいた多くの方々に、心より感謝申し上げます。

これからも共にがんと向き合う地域社会作りに向けて歩き続けていきたいと思います。ありがとうございました。



6月27日～6月28日

いちい信金  
スポーツセンター

総参加者数	611人
チーム	23チーム
サバイバー	103人
総収入	835,575円
実行経費	232,488円
寄付総額	603,087円

## I 出逢い そして 絆～みんなで作る RFLJ 岡崎

実行委員長 米山 三香恵

今年で連続6回目の開催となりました。新規7チームを含む47チームと、個人参加の方々、ボランティアの方々と、昨年の参加人数を上回る賑やかな会場となりました。

今年のテーマは昨年に続き『サイン～前兆』で取り組み、サバイバーさん自らの体験でがんのサイン前兆を教えてくださいました。開催日直前に、芸能人のがん告知ニュースが重なった事もあり、多くの方が、いつも以上にがんへの関心が高かったと思います。

岡崎は、リピーターチームが多いのが特徴で、ありがたい事に毎年ボリュームアップしています。老舗チームと新規チームが色々な趣向で会場を盛り上げてくださり、チーム同士の絆を感じました。

そして、岡崎はルミナリエのサテライト会場があります。同日に愛知県がんセンター愛知病院の中庭で毎年開催しているのと、そして今年は新たに南生協病院にて、日にちを変えて開催しました。本会場とは別の場所でも、それぞれの会場があたたかい空気に包まれており、多くの方々のご協力と熱い想いのおかげで実現できました。ありがとうございました。

RFLに関わる全ての方々に感謝して、『また逢えたね』を合言葉に、出逢いと絆が、ずっと続いていく事を願っています。



9月26日～9月27日

■ 暮らしの杜

総参加者数	3632人
チーム	47チーム
サバイバー	260人
総収入	3,068,125円
実行経費	1,538,672円
寄付総額	1,529,453円



## I みんなで歩こう、このゆびとまれ

実行委員長 熊澤 克人

昨年に引き続き、今年2回目の開催をさせて頂きました。

開催日程を、地元の選挙の関係もあり昨年より1週間遅らせました。その都合もあってか、昨年と同じ会場が使用できなくなり、違う場所での開催となりました。今年の場所は、比較的繁華街で人通りが多い為、PRや準備にはとても都合の良い場所でした。

連休という事もあり、イベントを開催するにはとても良い日になるだろうと思っていたのですが、当日は様々なイベントが重なり駐車場の確保に工面するなど、予想外の部分で苦労がありました。ただ、人が多く集まっていた分、周知するにはとても良い環境だったと思います。

アトラクションでは昨年同様、地元の中学、高校の生徒さん達に協力してもらい、プラスバンド演奏やパワーリフティングの実演などで盛り上がりました。

残念ながら、昨年の台風直撃に続き今年は夜から大雨に見舞われ、2日目のアトラクションが出来なくなってしまった事は本当に残念でなりません。

そして今年は、乳がんの無料検診を実施することができ、限定40名ではありましたが即座に定数に達し検診を終えることができました。直前に、タレントさんががんを患ったニュースがありその影響も大きかったのではと思っています。

昨年よりも改善しなければならない部分が多々ありましたが、良くなった部分も多かったのもので、この反省を活かし来年はもっと楽しいイベントを開催できるように、みんなで頑張っていきたいと思います。



10月10日～10月11日

## ■ 豊川市総合体育館前広場

総参加者数	380人
チーム	14チーム
サバイバー	18人
総収入	1,262,449円
実行経費	327,598円
寄付総額	934,851円

## I 笑顔でつながる愛といのち

副実行委員長 吉田 栄治

2回目の開催でもあり、会場づくりや準備物に少し心のゆとりを持つ事ができたスケジュールで、新実行委員長のもとと全委員が笑顔で心を合わせ一丸となった開催でした。お陰様で好天に恵まれ、びわ湖を眼前に、自然に抱かれた雰囲気の中、夜間に突然の強風にあおられ一部会場のテントが倒れた事もありましたが、がん征圧に向けて多くの温かいご支援ご協力いただき素晴らしいRFLを開催する事ができ心からの感謝でした。

県内各地、県外からも多くの方にご参加いただき、三日月大造県知事、富士谷英正近江八幡市長等の力強いご挨拶の後、東近江消防音楽隊のプラスバンドのマーチによって入場行進がスタート、知事や関係者も一緒にウォークに参加いただきました。

2日間とも日中は好天に恵まれ、多くのサバイバーさん、ケアギバーさん、チームの皆さんがステージ演奏のリズムに合わせ、元気に笑顔でリレーウォークされるお姿に、とてもたのしく胸熱くなりました。

特に夕闇の染まる頃、大きな輪でキャンドルセレモニー・エンピティテーブルは灯りに照らされ、朗読と演奏はとても感動的と皆さん申されていました。

RFLが終わっても、当日の素晴らしい余韻が残りととても良い気持ちでした。1週間後にはお焚き上げも無事終了し、色々ご支援ご協力頂いた全ての方々に心から深く感謝します。

今後とも、がん征圧に向けてRFLの輪が少しでも広がるよう、みんなで頑張っていきたいと思います。本当に有難うございました。



10月24日～10月25日

■ 休暇村  
近江八幡（宮ヶ浜）

総参加者数	1280人
チーム	27チーム
サバイバー	100人
総収入	1,798,318円
実行経費	615,185円
寄付総額	1,183,133円

## I 大阪らしさとすべての出会いに感謝

副実行委員長 西内重広

大阪から心もったメッセージ！を発信させたい。との思いで大阪市内で3年、旭区民センターでは2回目の開催となりました。

今年も仲間を大切にしやすい心を引き継ぎ“手を繋ごう笑顔で前進あさひに向けて”をテーマに実施。国内でも珍しい室内型のリレーウォークを昨年の経験を基に、サバイバーはもちろん参加者全員がよりやさしく快適に楽しい24時間イベントとなりました。

セレモニーも毎年恒例になった高井アナの協力により、語られるメッセージが全ての心に届く感動をいただきました。またステージではタレントの河内家菊水丸さんが河内音頭で参加者と一体になる盆踊りなどで盛り上がりも最高潮！熱い熱気と元気と勇気をもらえました。

また前日のプレイベントの大阪城での紫のライトアップも3回目を数え、今年からは隣接された森ノ宮 Qs モールの屋上エアートラックから紫に染まった大阪城を横目にウォークも大変好評でした。来年もまた更に楽しく元気に、大阪らしさも取り入れた24時間イベントにして行くことを心に誓い、来年も皆様との再会を楽しみに待っています。

全ての出会いに今年もありがとうございました！



10月11日～10月12日

## ■ 大阪市立旭区民センター

総参加者数	800人
チーム	30チーム
サバイバー	33人
総収入	1,071,438円
実行経費	266,925円
寄付総額	804,513円

## I ピンチはチャンス！

実行委員長 東 英子

今年はシルバー・ウィークや地元のお祭り（貝塚市はだんじりで有名な岸和田市の隣りでお祭りも盛ん）、運動会などと開催日をずらすため、リレー・イベントの開催を今までの9月から10月31日・11月1日に変更せざるを得ませんでした。でも、「10月31日はハロウィンだから仮装も楽しもう！」と前向きに受け止めました。寒さ対策を練るなかで、テントをトラック内に配置し、「HOPE」を風船で作るというアイデアが生まれました。LEDの灯りを蝋燭のように見せる工夫もしました。日程の違いはブラッシュアップのチャンスとなったのです。

日中と夜間の気温差で風船がしぼんだり、サバイバー交流の場での対話がステージの音量でかき消されたり、エンブティ・セレモニーの際、強風で蝋燭の火が消えたりなど、失敗やアクシデントがなかったわけではありません。そんなときでも、参加者の皆さんと一緒にイベントを創りたいという思いが伝わっていたのでしょう。多くの方が文句も言わずに協力してくださいました。感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちは、チーム説明会やボランティア説明会、地域で開催されるイベントへの参加にも力を入れています。RFLの意味を正しく知って、自分に何ができるかを一緒に考えていただきたいという思いは、年を重ねる毎に強くなっているように感じます。来年開催しますと、5年連続開催の節目となります。RFLJ2016に向けて「笑顔☆つながる」！



10月31日～11月1日

■ 貝塚市民の森  
(シェルシアター)

総参加者数	834人
チーム	33チーム
サバイバー	28人
総収入	1,290,482円
実行経費	845,965円
寄付総額	444,517円



## 響け神戸に！がん患者支援の声と足音

事務局長 古川 宗

梅雨入り2週目にもかかわらず好天に恵まれ、リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 神戸は、6月13日の14時より14日12時まで、盛大かつ成功裏に終えることができました。今年は大きく3つの新しい企画に挑戦しました。

1つ目は、平成27年は阪神淡路大震災から20年という節目の年であることです。「震災」と向き合った人、日々「がん」と向き合うサバイバー、お互いが「命をつなぐ」というキーワードで一つになりました。東遊園地で燃え続ける1.17希望の灯りの前で分灯式を行い、その火をみなとのもり公園に持ち帰り、命あることを尊ぶ「鐘」の音を聞きながら、紙燈籠の「HOPE」と竹燈籠の「命」を、会場に居られる皆さんの手で一つずつ灯していただきました。

今年のもう一つの目玉企画は、キッズプログラムです。子供達で組み立てる「木のジャングルジム」、巨大鯉のぼり（スイミー）の胎内潜り、親子で乗れるミニ機関車、おもちゃつきや絵本の読み聞かせなど、たくさんの子供達の笑顔がはじけていました。

最後に、メモリアルテント「あじさいの部屋」を建てました。この会場にお連れしたかった方、来たくとも来られなかった人の写真や記念グッズを、紫陽花と共に飾らせていただきました。

会場にお越しいただいた大勢のラン・ウォークチームの方々、ミュージックバトンの方々、ボランティアの方々、実行委員等多くの人に支えられたリレー・フォー・ライフでした。



6月13日～6月14日

神戸震災復興記念公園  
みなとのもり公園

総参加者数	1300人
チーム	50チーム
サバイバー	82人
総収入	2,972,809円
実行経費	1,971,663円
寄付総額	1,001,146円

## 誰かがいる 何かがある

実行委員長 城村 “KUMA” 勉

貴方にとっての誰かがいます、貴方にとっての何かがあります、9年目のリレー・フォー・ライフ・ジャパン芦屋はそのような場所であることを目指しました。

昨年の貴方は一歩踏み出せていましたか？今年の貴方はさらに踏み出せましたか？そして来年は…

立ち止まってもいいんです。振り返ってもいいんです。0.5歩の歩みでもいいんです。RFL芦屋はそれぞれの立場で、同じ状況にある者同士が、打ち明け、繋がり、情報を共有できる場を目指します。簡単ではないかもしれませんが、しかしRFL芦屋は継続して目指します。

今年も多くの参加者・来場者・行政・各医療機関・協賛協力者・多くのボランティアさん・何よりも地元芦屋市民の皆さんに支えていただき開催することが出来ました。今年も耳にしたあの合言葉「来年、また芦屋で会いましょう！」。私達、実行委員はその言葉にパワーをもらいます。

2016年は原点回帰の10年目を迎えます。「ようこそRFL芦屋へ、お帰りなさいRFL芦屋へ」を胸に秘め、開催準備のスタートを切りました。今から楽しみにしててください！10年目の出愛いと再会を。

※最後に雨男(?)からのお願いです。ホンマにお願いですから、2016年はテルテル坊主を作っといってくださいね。8月の末から、ね。みなさん、よろしくお願いいたします。



9月5日～9月6日

芦屋市立川西運動場・  
体育館・青少年センター

総参加者数	2000人
チーム	56チーム
サバイバー	200人
総収入	4,119,585円
実行経費	3,474,127円
寄付総額	645,458円

## 継続することが大事

RFL 奈良は、10月3日～4日に郡山合同庁舎グラウンドで開催することができました。今回で3回目の奈良県での開催です。

今年も奈良県リクリエーション協会の協力と県立法隆寺国際高等学校、県立御所実業高等学校、県立王寺工業高等学校の生徒さんの若い力のボランティアと高齢の実行委員で無事開催することができました。

ならのがん対策県民提案事業として「ならのがん検診率50%をめざして」、早期発見、早期治療をテーマに行いました。吉本クリエイティブエイジェンシーの協力も得て華やかな舞台とお笑いで大いに盛り上がりました。

高校生によるエンプティーテーブルの朗読、ルミナリエのHOPEは去年に引き続き奈良自慢の仕上がりになりました。

サバイバーの方々、その家族の方々の再会の場になるよう、私たちはRFLを継続し、すべての人が笑顔で再会できるように、今後とがんばっていきたいと思います。

そしてRFL 奈良 2015にご参加・協賛。協力いただきました多くの方々、実行委員のメンバーに感謝・お礼を申し上げます。ありがとうございました。

次回2016も同じ場所で開催を予定しております。皆様と最高の笑顔で再会できることを楽しみにしております。

実行委員長 入江 護



10月3日～10月4日

奈良県  
郡山総合庁舎グラウンド

総参加者数	764人
チーム	41チーム
サバイバー	68人
総収入	1,514,999円
実行経費	813,283円
寄付総額	701,716円

## 絆ひろがる和歌山で

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 わかやま。5月23日～24日雨天90%の予報をはね除け、両日も晴天のもと開催できました。

わたくし個人的な事ですが、初開催時は肝臓がんの術後、抗がん剤治療が始まったばかりでした。

そして今年は、開催直前に乳房摘出手術を終えたばかりでした。

手術成功を自分の事のように喜び、心配してくれた仲間達。感謝の言葉に尽きます。

私が身をもって感じた想いを、今度は今闘病している誰かに届けたい！つないでいきたい！そう思いました。

また今年は、関西の情報番組に取り上げて頂いた事で、より一層患者さんや家族の方々に、そして和歌山県民に情報が届き、大きな反響を呼びました。

「誰の為に？」「何の為に？」みんな基本を心に刻み、2016年に向けて第一歩を踏み出してくれることでしょう。

がんと別れる事はできませんが、一生仲良く付き合い歩いて生きたいと思っています。

和歌山県民に絆がつながりますように！

実行委員長 南出 尚美



5月23日～5月24日

和歌山城 砂の丸広場

総参加者数	1500人
チーム	41チーム
サバイバー	200人
総収入	2,140,775円
実行経費	1,142,910円
寄付総額	997,865円



## 雨にも負けず、外でも内でも笑顔リレー！

実行委員長 馬庭 恭子

今回初めて、啓発イベントを開催しました。開催日時を書き込んだティッシュを配布しながら、がん検診など啓発活動を展開、夕方、点灯したルミナリエのメッセージに行きかう人たちが足をとめて見入る姿がありました。若者たちの関心の高さが、驚きとともに嬉しかったです。

開催1日目の後半からどしゃぶりの雨となりました。でも大丈夫！日本一を誇る特別支援学校にはグラウンドより長い幅広の円周廊下があるのです。廊下をぐるぐるまわり、リレーをつなぎました。各教室には障がいをもちながらも多才な子どもたちの絵や工作物が展示され、まるで現代アート美術館です。調理実習室ではボランティアさんが味噌汁やおにぎりを。癒される空間で優しいサポーターの皆さんのおかげでリレーを続けることができました。がん拠点病院の先生、新企画の学校教育「がん教育」小学校教師の講演も大入り満員御礼。カープのサイン入りユニホームやサンフレッチェのサインボールのオークションはハラハラドキドキの盛り上がり。企業協賛も定着しはじめ、行政はじめ地域の協力も拡大しつつあります。

サバイバーさんたちが「是非、来年も！」この声を聞くと「そうだ、来年も」と思うのです。広島市、福山市、尾道市と巡回しながら開催してきました。今後は県北部の他都市での開催や、実行委員会に新たな仲間が増え、その輪が虹のように重なりながら大きくなればと思います。無事終えたことを感謝いたします。



9月5日～9月6日

広島市立  
広島特別支援学校

総参加者数	1300人
チーム	32チーム
サバイバー	124人
総収入	4,052,656円
実行経費	1,502,656円
寄付総額	2,550,000円

## よびあい、よりそい、よあけまで

実行委員長 香留 美菜

今年、4回目の開催となった、リレー・フォー・ライフとくしま。開催当初は、夜通しの開催を遠巻きに見守ってくださった方々が、静かな長い夜を一緒に過ごそうとスケジュールに書き込んでくれていたと聞きました。がんとともに歩む方々を応援したいと始めた私たちですが、いざスタートしてみると、私たちがこの場所を作っているのではなく、ここに足を運んでくださる方々や、地元の方々のさりげない優しさで出来ていました。

昨年の開催当日は体調が悪く、参加出来なかった方が、今年は開会式前に来て、私たちを見つけた瞬間、にんまりと笑って、来たよーと言って駆け寄ってくれた一言が忘れられません。そして、この場所で、初めて会う方がそれぞれに静かに、ゆったりと繋がっていく光景は、なにより私たちの心を暖かくしてくれました。

東新町商店街の方が、開催の数日前から、リレー・フォー・ライフとくしまの文字が入ったものと、リレー・フォー・ライフでは大切な言葉だからとHOPEの文字の横断幕を掲げてくれました。医療者の方々が、私たちの応援も届けたいと、朝早くからかけつけてくださり、普段とは違った環境でサバイバーの方々に寄り添う姿は、病院のなかではない、距離の近さを感じました。

沢山の人が、がんと共に歩む人たちを応援している。そんな時間を感じることができ、今年もこの場所を作ってくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

また、来年もこの場所でお会いしましょう。



10月3日～10月4日

東新町商店街

総参加者数	924人
チーム	10チーム
サバイバー	23人
総収入	860,308円
実行経費	609,869円
寄付総額	250,439円

## I がんに負けへん～ひとりとちゃうんじょ

新しい出会い、再会、広がっていく輪、今年でリレー・フォー・ライフ・ジャパン小松島は8回目のしおかぜ公園での開催となりました。

サバイバーさんとの交流テントでは笑いあり、涙あり、食欲あり・・・がンを宣告された時、漆黒の闇につきおとされたけど、闘病を支えてくれた家族に安らぎを感じ、医師や仲間との出会いを人生のチャンスだと捉えた話。小さな手でしっかり握り一緒にリレーウォークをしてくれた笑顔の可愛いサバイバーさん。遠くは仙台、京都、広島から勇気と希望を運んでくれたサバイバーさん。副作用の辛さで肉体的な疲れを伴いながらも精神的な安定を求め交流にきてくださったサバイバーさん。そして、24時間続くリレーウォークは、それぞれの思いを勇気にかえてくれました。

人との出会いは素晴らしければ素晴らしいほど、その人との二度と会えない別れの悲しみをより深いものとする。そんな突然の悲しい別れを「ありがとう」と「感謝」の言葉にかえて託すルミナリエの灯りは夜明けまで続く。その幻想的な光が、紫色に変わる瞬間、希望への朝を迎える。新しい命の芽生え、出会いが待っている朝である。

「がんに負けへん」

「ひとりとちゃうんじょ」

希望の光を放ち、明日へと繋ぐタスキリレーは笑顔に変わっていく。

実行委員長 森本 大樹



10月10日～10月11日

## ■ しおかぜ公園

総参加者数	200人
チーム	20チーム
サバイバー	38人
総収入	489,162円
実行経費	61,713円
寄付総額	427,449円

## I 6年の足跡、そして明日への標

360度どこを見ても真っ青な空の下、「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 えひめ」を開催することができました。

参加チームは37、登録してくださった参加者は約2,500人。2010年に1,000人余りの参加者でスタートして6回目、参加者は延べ10,000人を超えました。

この間の時間の積み重ねをあちこちで感じました。医療を学ぶ学生時代にボランティアとして参加していた人たちが、それぞれの勤務先の一員としてウォークに参加していたり、過去5回のサバイバーズフラッグを展示したコーナーでは、大切な仲間が残した手形を愛おしく見つめる姿も見られました。

今年は初企画として「勇気と希望の五七五」というワークショップに取り組みました。俳句の町松山ならではの企画として、参加者から広く俳句を募集しました。最優秀句はサバイバーの女性が詠んだ『六年目の手形を置いて リレーフォーライフ』でした。

今年のテーマとして掲げたのは「標（しるべ）」。暗闇を行く患者さんやご家族にとっての道標の一つになりたいという思いを込めました。この標を24時間で絶やすのではなく、地域に広く根付かせていくことが重要だと感じています。

実行委員長 松本 陽子



10月17日～10月18日

■ 城山公園堀之内地区  
ふれあい広場

総参加者数	2314人
チーム	37チーム
サバイバー	64人
総収入	4,957,159円
実行経費	3,360,257円
寄付総額	1,596,902円



## 「リレー・フォー・ライフへの想い」を共有して

実行委員 山下 みち

RFLを開催するにあたり実行委員会では、RFLを何の為にするのか？それぞれのRFLへの想いを共有することから始めて、実行委員会を重ねて来ました。

高知の空の玄関高知龍馬空港近くの、高知大学農学部グラウンドで、高知では8回目となるRFLが開催されました。

開会式の後、中高生バンドの演奏と拍手に送られてのサバイバーズラップから24時間リレーがスタート。今年は、RFL広島副実行委員長の浜中和子先生が、広島から参加して下さり「RFLへの想い」と題して、心に響く講演で私たちを勇気づけてくれました。

そして、今がんと闘っているサバイバーによるオカリナの演奏。主治医や友人が見守る中で聴かせてくれたメロディーからは、静かで力強い闘志が聞こえてくるようで心打たれました。

ルミナリエに優しい灯りがとまり、セレモニーの後には、RFLに参加することにより「がんであること」を前向きに受け止められるようになるまでの心の動きを綴った、サバイバーからの一通の手紙が朗読されました。

同じグラウンドを歩いていても、それぞれの見える風景や思いは違っているかもしれないけれど、RFLに対する想いは、どこかで共通していると思います。サバイバーが主役、また、皆が主役のRFL 高知で、出会える喜びと沢山の勇気をもらいました。

この活動が、高知家を挙げてのがん患者支援となるように、松浦喜美夫実行委員長を中心に実行委員一同これからもチームワーク良く頑張っていきます。



10月10日～10月11日

## ■ 高知大学農学部グラウンド

総参加者数	1500人
チーム	37チーム
サバイバー	50人
総収入	2,676,244円
実行経費	2,085,504円
寄付総額	590,740円

## みんなの想い

実行委員長 柴田 眞江

今年で7回目となるRFLJ2015福岡が開催され、皆様のご協力のもと無事に終了する事ができました。マスコミ各社も取材に来て下さり福岡のテレビ局のほとんど、新聞社も2社取材して頂けました。

私たちは「リレー・フォー・ライフ」の活動を広く皆さんに知って頂けるよう、5月には「博多どんたく港まつり」のパレードに参加、7月には福岡PARCOの前で募金活動、8月には「KBCオーガスタゴルフトーナメント」にブースを設けさせてもらい啓発グッズ販売、啓発活動を行いました。

大会当日は、昼間は汗ばむ陽気でしたが、だんだんと雲行きも怪しくなり、福岡の会場特有の海風が強くなり、そして大雨。嵐のような天候になりました。並べていたルミナリエは雨で濡れ、さらに風にあおられ斜めに。ところが、その後、雨も風もピタリと止まり諦めかけていたロウソクに幸いにも火が灯りました。全てのルミナリエが雨上がりの清々しい空気の中、鮮やかに幻想的な世界を作りだしました。ルミナリエに描かれた想い、実行委員の想い、みなさんの想いがきっと通じたのでしょう。

今年のスローガンには「讃えよう！踏み出す勇氣！助け合う勇氣！」を掲げました。一歩踏み出した先には沢山の仲間がいてみんな助け合って生きている、お互いに讃え合おう、という思いで、会場にお越しの皆様、それぞれに交流を深め愛のある会場作りができたと思います。また、来年の開催を誓い「笑（わろ）うて生（い）くばい！」



9月12日～9月13日

■ 海の中道海浜公園  
光と風の広場

総参加者数	1265人
チーム	37チーム
サバイバー	102人
総収入	2,155,825円
実行経費	1,430,287円
寄付総額	725,538円

## 「でくっしこ」で頑張った第1回大会

副実行委員長・事務局長 福島 龍一

佐賀県で初めての開催。他地区においての経験者が数名。いかにして一人一人の力が引出せるのか、どうすれば実行委員会が活性化するのか、何もかもが手探りの状況でのスタートでした。誰が言い出したのか、「でくっしこ」佐賀弁で「出来るだけ」が合言葉となって、一人一人が出来る範囲で精一杯の力を出し合おうという気持ちが成熟していきました。

そんな中でも果たしてどれだけの方々が参加してくれるのか、運営する経費は充足できるのか、実行委員はボランティアは・・・と不安が先行する日々が続きましたが、9月に入ってから、一気に盛り上がりを見せ始め、大会へと後押しをしてくれました。

大会期間中は、素晴らしい晴天に恵まれました。開会式には山口佐賀県知事、佐賀県医師会会長も出席をいただき、実行委員長はじめ皆様方がサバイバーという、まさにこれ以上の演出はない状況でスタートしました。特にルミナリエ・エンブティーテーブルの頃には、翌日がブルームーンという月が、会場を明るく照らし出してくれて、言葉で説明することもなく、会場にいた方々の気持ちが一つになっていったと感じました。

一周約 350 メートルのコースを、100 週以上歩かれた方もいて、大会を大いに盛り上げていただきました。



9月26日～9月27日

## ■ どんどんどんの森

総参加者数	2000 人
チー ム	38 チーム
サバイバー	120 人
総 収 入	3,550,129 円
実 行 経 費	3,037,645 円
寄 付 総 額	512,484 円

## 「ありがとうの感謝を込めて

実行委員長 荒木 陽美

2015 年 5 月 16 日(土)、17 日(日)熊本市中央区草葉町の白川公園にて、第5回目となりますリレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 くまもとを開催する事が出来ました。ご協力頂いた各企業の皆様、チーム参加の皆様、会場まで足を運んでくださったサバイバーの皆様、支えて続けてきたご家族の皆様、心より、お礼申し上げます。

今回の開催は、お天気に恵まれず、当日朝まで雨が降っており、普段は緑の美しい公園内ですが、足元がぬかるむ中での最終準備となりました。しかし、開会式にはようやく晴れ間も見え、ホッと一安心する事が出来ました。これも、皆様の笑顔のお陰だと思っています。毎回、実行委員会では無事に開催出来るように、計画書を元に会議を重ねて来ますが、今回はなかなか思うように準備が出来ずに、各企業のご参加の皆様には開催直前での説明会となるなど、不手際が目立ち、実行委員長としての力不足を痛感いたしました。準備不足をどのようにして補うのか、準備段階での調整をどのように解決するのかを今後の課題にしたいと思います。

がん患者支援、がん啓発 24 時間ウォークチャリティーイベントのリレー・フォー・ライフ・ジャパンの活動を通して、「がんになるのも悪くない」「がんになっても一人じゃない」と感じてもらえるように、歩みを続けて行こうと思います。たくさんのありがとうの感謝を込めて、これからもよろしくお願い致します。



5月16日～5月17日

## ■ 白川公園

総参加者数	916 人
チー ム	34 チーム
サバイバー	104 人
総 収 入	1,970,784 円
実 行 経 費	980,654 円
寄 付 総 額	990,130 円



## I リレーをありがとう

実行委員長 山本 克枝

爽やかな秋空の下、「すきっちゃ大分！笑うちこえ〜」と大分らしいスローガンを合い言葉に、24 時間タスキを繋いでいきました。

温かい拍手の中、手形フラッグと共に歩くサバイバーさんの姿に、今年も出会えた喜びで皆さん笑顔が溢れていきました。昨年よりチーム数は減りましたが、家族連れのチームが多く、子供達の無邪気な笑顔がより一層周りを和やかにしていきました。

特別講演では垣添忠生先生が“がん検診”の重要性をわかりやすく話して下さいました。

サバイバーズトークで“RFU 大分がんサロン”の仲間が、「がんサロンの大切さ」「働きながらの治療」「今だから話せる母の想い」とそれぞれの想いを語り、その姿に勇気をいただきました。

日が沈みエンブティーテーブルが始まると歩みを止め、「今日ここに来られなかった方の為に」静かに祈り、優しいルミナリエの灯りに助けられながら笑顔で歩き続けた参加者達。真夜中のテントの中では交代で休み、仲間と語らいながら絆を深める皆さんの姿もあり、夜中もあたたかさで溢れていました。

こうして夜通し歩く皆さんの姿に胸が熱くなり、素敵ナリレーに出会えたことに心から感謝しながら迎えた朝。ラジオ体操で心と体をリフレッシュして、歩き続けました。“想いを叫ぼう〜”で「ここに来られないサバイバーさんの為に、地元でリレーを開催したい」と叫んだ参加者の声に“リレーの心”を感じながら、笑顔のハイタッチを交わして再会を誓いました。



10月10日～10月11日

大分スポーツ公園  
「大芝生広場」

総参加者数	6000 人
チー ム	58 チーム
サバイバー	175 人
総 収 入	4,143,334 円
実 行 経 費	757,377 円
寄 付 総 額	3,385,957 円

## I 4 回目の元気・勇気・希望・命のリレーを終えて

実行委員長 山口 哲朗

今回は 2012 年に宮崎で初めて開催した場所、延岡市北川運動公園で開催いたしました。4 回目の開催となり、それなりのノウハウは蓄積できていましたが、とくに協賛集めに大変苦労し、実行委員みんなが一体となって頑張り、開催の日を迎えることが出来ました。

ステージでは中学生、高校生による吹奏楽、みやざき犬のダンス、消防隊員によるフラダンスなど多彩なパフォーマンスが繰り広げられました。サバイバーズトークではがん患者さんの思いに、学生ボランティアを含む多くの方が耳を傾け、がんを知るきっかけになったと思います。

過去 3 回目まで、雨や風の中、ルミナリエを消さないようにする苦労が絶えませんでした。今回は 1 つも消えることなく一晩中豊かな光の点を映し出していましたし、きれいな星空とルミナリエの希望の光の共演に皆感激しました。エンブティーテーブルでは患者を支える家族の手記が朗読され、場内に静寂が訪れました。

今回の参加者の中には、赤ん坊を抱きながら歩く参加者もいて、新たな命を迎える喜びと、会の開催に尽力したがん患者さんを失っていく悲しみが相まって、まさに命のリレーを実感しました。

最後まで事故もなく無事終了したことに感謝し、共に歩いたサバイバーさん、病氣療養のため参加できなかった仲間と再会できることを願いました。



10月3日～10月4日

北川運動公園  
多目的グラウンド

総参加者数	962 人
チー ム	38 チーム
サバイバー	38 人
総 収 入	2,985,373 円
実 行 経 費	2,197,027 円
寄 付 総 額	788,346 円

## 「つなげよう！命のリレー」

副実行委員長 高橋 真由美

2007年からスタートした「つなげよう！命のリレー」から、9回目となる「リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま」は、今年も全国のトップを切って開催されました。

昨年は桜島の「どか灰」に見舞われ、今年はというと、集合時は横殴りの雨と降灰。どうなることかと心配しましたが、開会式の頃には雨がやみ、ルミナリエ点灯時には、雲が切れて星空が見えるまでになりました。

今年は、患者さんを困ってどなたでも参加できる「星空サロン」を開催しました。実際にがんを経験した方から、貴重なお話が聞けてよかったと大変好評でした。また、初めての試みとして、各チーム1周歩いたら1円以上入れて重量や金額を競い合う「みんなで歩いてチャリティ募金」を開催。チームごとに楽しみながら募金をしていただきました。

参加チーム59・参加人数2,000名。沢山の方の参加とご協力を今年もいただきました。参加された皆さんの熱い思いと、優しい気持ちが、一人でも多くの患者さんやご家族のためになることを、心より願います。



5月9日～5月10日

### ■ウォーターフロントパーク

総参加者数	2000人
チーム	59チーム
サバイバー	82人
総収入	3,016,954円
実行経費	2,238,794円
寄付総額	778,160円

## 「ちむぐくる沖縄で新たなスタート」

実行委員長 上原弘美

沖縄での開催は5回目。新たに実行委員を立ち上げ仲間とPt firstな気持ちでスタートしました。初めての運営に試行錯誤しながらも開催間近になると不安も募るなか天気予報はまさかの雨。それでも皆の合言葉は「なんくるないさ～」

当日朝は大雨だけ「絶対晴れる！」との願いは天に届き開会式には晴々としたお天気になりました。会場を見渡すと顔見知りの関係者やサバイバーも多く「待ってました～」と言わんばかりの笑顔。それに応えるかのように地元ならではのパフォーマンスで会場が一体となり盛り上がりました。夕暮れになるとルミナリエセレモニーがはじまり、それぞれが想いを馳せ語り合いが始まる頃、雨足が強くなり、大雨洪水警報が発令されるほどの豪雨で軒下に避難しました。雨に濡れ寒さもありながら学生や子供たちはキラキラと楽しそうにしていたのがとても印象的でした。このまま継続か中止かを実行委員で話し合った結果、一旦中断し翌朝7時より再開しました。その後雨も上がり空気が澄んで晴天となり、リレーが再開され、無事閉会式を終えることができました。

県内でがんに関する様々な活動が個々に行われていた点と点が繋がり線となったことが嬉しく思います。個々がパズルのピースであり、それを繋げることで大きな面となり私たちの目指すべきものを描けることができるのはRFLならではの思いです。

今回開催するにあたり多くの関係者の方々のご支援を賜り深く感謝申し上げます。



11月14日～11月15日

### ■浦添カルチャーパーク 《てだこ広場》

総参加者数	860人
チーム	14チーム
サバイバー	148人
総収入	2,036,752円
実行経費	1,011,744円
寄付総額	1,025,008円





# RELAY FOR LIFE







# 2015 SAVE LIVES!

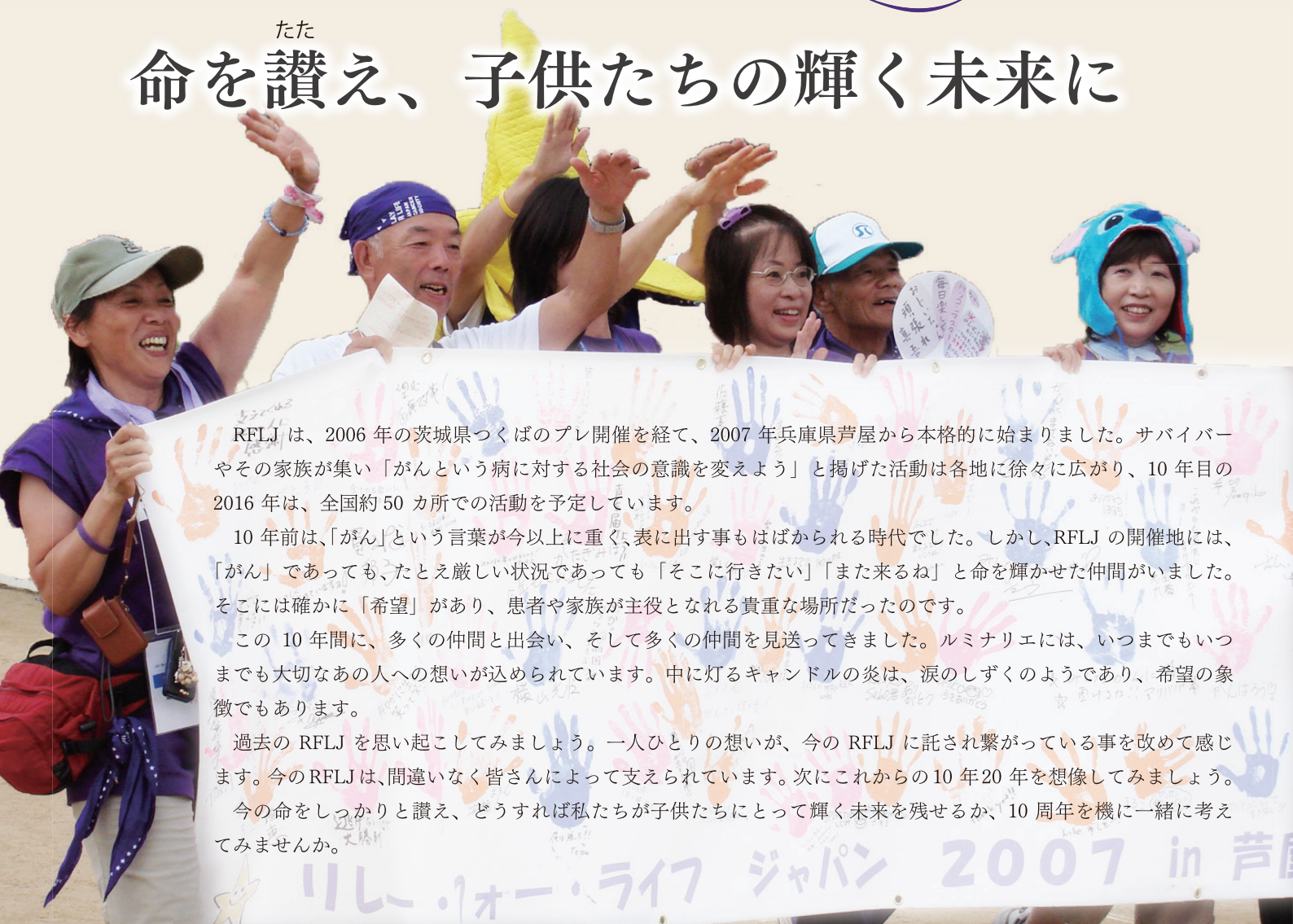




# リレー・フォー・ライフ・ジャパンは 2016年に10周年を迎えます。



## 命を讃え、子供たちの輝く未来に



RFLJは、2006年の茨城県つくばのプレ開催を経て、2007年兵庫県芦屋から本格的に始まりました。サバイバーやその家族が集い「がんという病に対する社会の意識を変えよう」と掲げた活動は各地に徐々に広がり、10年目の2016年は、全国約50カ所での活動を予定しています。

10年前は、「がん」という言葉が今以上に重く、表に出す事はばかられる時代でした。しかし、RFLJの開催地には、「がん」であっても、たとえ厳しい状況であっても「そこに行きたい」「また来るね」と命を輝かせた仲間がいました。そこには確かに「希望」があり、患者や家族が主役となれる貴重な場所だったのです。

この10年間に、多くの仲間と出会い、そして多くの仲間を見送ってきました。ルミナリエには、いつまでもいつまでも大切なあの人への想いが込められています。中に灯るキャンドルの炎は、涙のしずくのようにあり、希望の象徴でもあります。

過去のRFLJを思い起こしてみましよう。一人ひとりの想いが、今のRFLJに託され繋がっている事を改めて感じます。今のRFLJは、間違いなく皆さんによって支えられています。次にこれからの10年20年を想像してみましよう。

今の命をしっかりと讃え、どうすれば私たちが子供たちにとって輝く未来を残せるか、10周年を機に一緒に考えてみませんか。

10周年特設ページから、皆さんの  
応援メッセージを投稿しましょう！



RFLJ10



で検索！

<http://relayforlife.jp/10years/>

運営：RFLJ 10周年推進委員会

16-02-9500

共に生きてきた功績を讃え、  
そして10周年を祝う

Celebrate

10年を思い起こす

Remember

目の前の患者支援に加え、  
「未来」のがん医療支援を見据える

Fight Back